

青少年教育施設を活用したネット依存対策事業「うまホキャンプ」

8月16日（火）から22日（月）まで、岩城少年自然の家において、ネット依存傾向にある小・中学生を対象に、自然体験活動や認知行動療法等を取り入れた長期宿泊体験プログラム「うまホキャンプ」を開催しました。

県教育委員会は、平成25年度から、子どもたちのインターネット利用の問題を家庭教育の一つの課題と捉え、「大人が支える！インターネットセキュリティの推進」に取り組んできました。しかし、ネット利用の低年齢化や長時間化が進んでいることから、保護者啓発、未然防止だけではなく、ネット依存傾向にある小・中学生への対応も必要であると考え、今年度から新規に実施した取組です。

このキャンプの特徴は、依存症の治療に有効とされる「認知行動療法」を、毎日のプログラムに組み込んでいるところです。これまでの自分を振り返り、自分の置かれている状況や気持ちを知ることから始まり、参加者同士がお互いの意見を交わしながら、これからの自分の行動や感情、生活について考えることができるように進められました。はじめは緊張気味であった参加者も、大学生や養護教諭とのコミュニケーションを重ねることで、表情も豊かになり、随所に笑顔が見られるようになりました。



【認知行動療法】

第1章：1日の生活を振り返る

第2章：ゲーム・ネット利用の良い点・悪い点

第3章：どんなときにゲーム・ネット利用が増えるのかな？

第4章：新しい自分を見つける①～活動編～

第5章：新しい自分を見つける②～リラックス編～

第4章の「新しい自分を見つける①～活動編～」では、これからやってみたい活動を発表し合いました。このキャンプで実施した「海釣り」や「滝や水の流れを見る」、「自然に触れる」、「友だちと話す」などがあり、ゲームやネット以外にも楽しい活動があることに気が付いたようでした。

ネット依存傾向が改善され、規則正しい生活習慣を身に付けることができたかどうかは、12月に予定している「フォローキャンプ」や追跡調査により検証することになりますが、再び顔を会わせる日を楽しみにしながら、無事全日程を終えることができました。

最後に、このキャンプの実施においては、医師や臨床心理士による認知行動療法・カウンセリング、養護教諭による参加者の体調管理・生活習慣に関する指導、大学生による参加者に寄り添ったサポートなど、多くの方々の協力や支援があったからできたところ感謝しているところです。



岩城港で海釣り



イカをさばいています



元滝を散策

秋田県立美術館 秋季特別展 平成28年9月8日(木)～11月6日(日)

さすらいの画家 斎藤真一 ～赫に秘めた想い～



越後瞽女日記お春瞽女物語り「赫い陽の道」
1978年 油彩・キャンパス 出羽桜美術館蔵

斎藤真一は生涯、漂泊者に心を寄せ、人間の根源的な哀しみと郷愁とを表現した画家です。30代半ばに渡欧した折、藤田嗣治のアトリエを訪れ、秋田や東北を旅することを勧められます。帰国後、北国を巡った斎藤は「瞽女」の存在を知り、その足跡を自ら辿りながら、瞽女たちを描き続けます。瞽女の哀しみは印象的な「赫」で表現され、人々の心を捉えました。また、斎藤は、絵筆をとるかたわら文筆家としても才能を発揮しました。越後瞽女についての随筆や明治の吉原の遊女の小説は映画や舞台などで上演されました。

このたびの展覧会では、(公財)出羽桜美術館の協力を得て、瞽女や明治の吉原、さすらいをテーマにした作品を展示します。画面に滲む人間の哀しみや孤独と、画家の言葉との響き合いをお楽しみください。

＜観覧料＞ 一般 600円(450円) 学生 400円(300円) 高校生以下無料

※20名以上の団体は()内の料金。 ※シニア割引 70歳以上の方は540円(他割引と併用不可)

※障害者手帳お持ちの方と付添の方1名は無料。

※割引を受けられる方は証明書等をご提示ください。

《 問い合わせ先 》 秋田県立美術館 電話 018-853-8686

家庭教育支援チームの設置に向けて、養成講座実施中！

近年、核家族化や少子化が進み、地縁的なつながりが薄れることによって、家庭の教育力が低下していると言われていています。学校には保護者から様々な意見や要望が寄せられ、学校だけで全てに対応することは不可能であり、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっています。

そこで、秋田県教育委員会では、今年度より、すべての親が安心して家庭教育を行うことができるよう、学校・家庭・地域連携総合推進事業において、地域人材による「家庭教育支援チーム」づくりを支援することにしました。家庭教育支援チームは、主に小中学生の親を対象に、悩み相談や情報交換を行う「お茶っこサロン」を開いたり、学びの場や機会を提供したりします。

秋田県では、現在、男鹿市と大館市の2つの市に、家庭教育支援チームが設置されていますが、これを全市町村に広げていきたいと考えています。そこで、家庭教育支援チームの中核となる人材を養成する「家庭教育支援チーム・リーダー養成講座」、家庭教育を支援する地域人材を育成する「家庭教育支援チーム・サポーター養成講座」を計7回実施し、チームの設置をサポートします。今年度は、8月までに3回の講座を実施しました。

受講者アンケートには、「安心できるサポーターになりたいです！今後もしっかり身に付けていきたいのでよろしくお願いします！」など、前向きなコメントが多く寄せられ、嬉しく感じています。今後も家庭教育支援チームの設置に向け、充実した講座を開催していきたいと思えます。

《 問い合わせ先 》 社会教育・読書推進班 電話018-860-5184